

# 市民発案事業 「平戸英国商館設置400周年記念事業」

長崎県平戸市文化交流課

平戸市は1613年に全国でも唯一、英国商館が設置された港町であり、2013年は「平戸英国商館設置400周年記念事業」として市民発案の記念事業を展開しました。事業のなかには、クレアの「地域国際化施策支援事業」の助成事業を活用し、公益財団法人松浦史料博物館が英国での展覧会・献茶式を行いました。以下、2013年に実施した平戸英国商館設置400周年記念事業について紹介します。

## 市民主体の記念事業

平戸市は日本列島本土の最西端に位置しており、古くから海外との交易が盛んで、遣隋使の時代から寄港地として発展を遂げました。16世紀の大航海時代には、ポルトガルやオランダ、イギリスなどの西欧諸国とのつながりを持つ国際都市として栄えた歴史があり、当時「西の都」と呼ばれるほどの繁栄がありました。

1613年6月にイギリス船クローブ号が平戸港に入港したときからイギリスとの交流が始まりました。1613年11月には英国商館が開設され2013年は英国商館が設置されてから400周年という記念の年を迎えました。

本事業は「ともに支えあっていく協働の精神による市民と行政が一体となったまちづくり」および「市民主役によるまちづくり」の2つを基本理念としています。市民提案による記念事業を実施した初めてのケースで、25事業を主催した関係団体が責任感をもって展開し、行政は舞台づくりに徹しました。実施された事業は、平戸市内にとどまらず国内外の団体とも連携しながら行われました。

平戸に設置された英国商館は、徳川家康の外交顧問ウィリアム・アダムス（三浦按針）の尽力が

大きく関わっており、ウィリアム・アダムスが足跡を残した都市には、大分県臼杵市、静岡県伊東市、神奈川県横須賀市があります。そのご縁で平戸市を含めた4市で「ANJINプロジェクト連絡協議会」を発足させ、按針の功績を顕彰し、偉業を未来へ伝えるため4市長がパートナーシップ宣言書に署名をしました。そして、2013年5月に第1回「ANJINサミット」を平戸市で開催し、各市の按針自慢やパネルディスカッションを行いました。今後は、4市持ち回りで本サミットを開催することとしており、次回は2014年8月に静岡県伊東市で開催予定となっております。

また、平戸に英国商館があったことを示す「英国商館遺址之碑」が1927年に在日英国人有志により建立されましたが、長年の風雨により劣化していることから、実行委員会に寄せられた協賛金を活用しリニューアルしました。そしてリニューアルに伴う除幕式を10月に開催した記念式典の前に行い、駐日英国大使やイギリス側で記念事業を行っている代表にも出席していただきました。このほか、国外からは三浦按針の故郷であるイギリス・メドウェイ市の高校生も来平し、記念式典や平戸くんちへの参加、民泊体験などを行い地元市民との交流を楽しみました。



平戸くんちのおくだりに参加

## 英国での展覧会・献茶式

クレアの助成金制度を活用し、公益財団法人松浦史料博物館がイギリスでの展覧会、献茶式を開催しました。イギリスセント州メイドストーン博物館ではイギリスと平戸の交流の歴史や日本文化を紹介することができました。

また、献茶式は平戸藩主によって興った武家茶道の一流である鎮信流により行われました。按針が洗礼を受けたギリングム（メドウェイ市）の教会（St. Mary Magdalene Church）では、日英交流に尽力した按針への感謝として献茶が行われました。そのほか、同市で開催されたウィリアム・アダムス・フェスティバルや、学校（チャタム・グラマー・スクール）においても呈茶<sup>ていちゃ</sup>やワークショップを開催しました。またロンドンでは、ウエストミンスターのパンケティング・ハウスにおいて“Two Cultures United by Tea”と題したイベントが行われ、そのなかにおいて鎮信流宗家松浦章氏（松浦史料博物館理事長）により茶道文化の解説などが行われ、呈茶も行われました。今回の展覧会・献茶式はロンドン市長をはじめ、王室関係者、また多くの一般市民の方に参加いただき、日英交流の歴史や茶道文化、そして平戸について理解を深めていただくことができました。

イギリス側からは、今回の展覧会・鎮信流献茶式をきっかけとして、さらなる交流を希望する提案がなされ、今後の展開に期待がかかります。



イギリスでの呈茶式

## 交流が永遠に続くことを願って

平戸英国商館の遺跡は、平戸市役所前と十八銀行平戸支店前に記念碑が建っており、現在ほとんど残されていません。しかし、平戸英国商館があった木引田町では毎年8月に初代英国商館長であった「リチャード・コックス」の名前から「コックスフェスタ」という縁日を開催するなど、これまでも平戸のなかにはイギリスとの歴史がありました。また、毎年5月最終日曜日には、国際交流団体HIRAの会主催による「按針忌」という三浦按針を偲ぶ慰霊祭が開催されています。この按針忌が縁で前メドウェイ市長のスーザン・ヘイドック氏と知り合うことができ、現在はメドウェイ市のチャタム・グラマー・スクールの生徒が修学旅行で平戸を訪れるようになりました。



按針忌（崎方公園内 三浦按針墓前にて）

記念事業をきっかけに市内飲食店では、各店舗が独自にイギリスにちなんだ料理やスコッチウイスキーを提供し訪れた人を楽しませる取り組みやボランティアガイドによる平戸とイギリスの歴史について学べる「さるく」コースの案内が実施されました。

今回の記念事業では、ハード整備ではなく市民を中心としたソフト事業を中心に展開しました。記念事業はすでに終了していますが、本事業をきっかけに継続される事業や新たに交流が始まる事業など今後も親善交流事業は継続されます。これまで続いていた平戸とイギリスとの関わりが記念事業を通じて、永遠に続いていくことを願っています。